

学科	国際コミュニケーション科		学年	1	区分	講義	科目	時事日本語 I	総時間	前期	2×18	
									後期			
指導目標	①大学・専門学校における時事問題に関する背景知識を広げる ②単純な＋、－評価に終わらない自分の意見・立場の立脚を固める ③柔軟なアウトプットができることを目指す ④自分の意見・発表だけでなく、他人の発表・コメントに対して客観的な意見が出せることを目指す											
評価方法	プレゼンテーション・出席率・参加態度・定期試験により総合的に評価する。											
指 導 内 容												
回数	月日	前期					回数	月日	後期			
1		スタートアップ①大阪のニュース①調べよう					1					
2		スタートアップ②大阪のニュース②発表しよう					2					
3		生活トラブル①調べよう					3					
4		生活トラブル②発表しよう					4					
5		観光①調べよう					5					
6		観光②発表しよう					6					
7		教育（家庭）①調べよう					7					
8		教育（家庭）②発表しよう					8					
9		少子高齢化①調べよう					9					
10		少子高齢化②発表しよう					10					
11		日本の企業①調べよう					11					
12		日本の企業②発表しよう					12					
13		働き方①調べよう					13					
14		働き方②発表しよう					14					
15		留学生①調べよう					15					
16		留学生②発表しよう					16					
17		まとめ					17					
18		定期試験										
備考	使用教科書：パソコン、パワーポイントを使用する。 ※この科目は語学の業界で実務を有する教員等が、実務経験から生じた知識や実績を網羅した授業を行う。											

学科	国際コミュニケーション科	学年	1	区分	講義	科目	時事日本語Ⅱ	総時間	前期		
								後期		2×17	
指導目標	①大学・専門学校における時事問題に関する背景知識を広げる ②単純な＋、－評価に終わらない自分の意見・立場の立脚を固める ③柔軟なアウトプットができることを目指す ④自分の意見・発表だけでなく、他人の発表・コメントに対して客観的な意見が出せることを目指す										
評価方法	プレゼンテーション・出席率・参加態度・定期試験により総合的に評価する。										
指 導 内 容											
回数	月日	前期				回数	月日	後期			
1						1		日本に住んでいる外国人①調べよう			
2						2		日本に住んでいる外国人②発表しよう			
3						3		サービス①調べよう			
4						4		サービス②発表しよう			
5						5		グループ別発表準備①			
6						6		グループ別発表準備②			
7						7		グループ別発表準備③			
8						8		グループ別発表①			
9						9		グループ別発表②			
10						10		グループ別発表③			
11						11		個別発表準備①			
12						12		個別発表準備②			
13						13		個別発表①			
14						14		個別発表②			
15						15		個別発表③			
16						16		まとめ			
17						17		定期試験			
18											
備考	使用教科書：パソコン、パワーポイントを使用する。 ※この科目は語学の業界で実務を有する教員等が、実務経験から生じた知識や実績を網羅した授業を行う。										

学科	国際コミュニケーション科	学年	1	区分	講義	科目	日本事情 I	総時間	前期	2×18	
								後期			
指導目標	テキスト上だけでなく、実際に発信されたウェブニュースや媒体を用いて、生きた日本事情に触れる。母国の社会事情や文化との相違・近似している部分に気づき、考えを深めることを目指す。										
評価方法	定期試験・出席率・学習態度により総合的に評価する。										
指 導 内 容											
回数	月日	前期				回数	月日	後期			
1		スタートアップ①自分の国について紹介する				1					
2		スタートアップ②友だちの国・日本について紹介する				2					
3		異なりを考える①				3					
4		異なりを考える②				4					
5		異なりを考える③				5					
6		異なりを考える④				6					
7		異なりを考える⑤				7					
8		中間発表①				8					
9		中間発表②				9					
10		マイクロアグレッション				10					
11		マイノリティとマジョリティ				11					
12		ユニバーサルデザイン				12					
13		ローカルとグローバル				13					
14		ステレオタイプ				14					
15		まとめの発表①				15					
16		まとめの発表②				16					
17		フィードバック				17					
18		定期試験									
備考	使用教科書：『多文化社会で多様性を考えるワークブック』有田 佳代子 他 著 研究社 ※この科目は語学の業界で実務を有する教員等が、実務経験から生じた知識や実績を網羅した授業を行う。										

学科	国際コミュニケーション科	学年	1	区分	講義	科目	日本事情Ⅱ	総時間	前期		
									後期	2×17	
指導目標	テキスト上だけでなく、実際に発信されたウェブニュースや媒体を用いて、生きた日本事情に触れる。母国の社会事情や文化との相違・近似している部分に気づき、考えを深めることを目指す。										
評価方法	定期試験・出席率・学習態度により総合的に評価する。										
指 導 内 容											
回数	月日	前期				回数	月日	後期			
1						1		スタートアップ①自分の社会事情について考えよう			
2						2		スタートアップ②日本の社会事情について考えよう			
3						3		ポップカルチャー①			
4						4		ポップカルチャー②			
5						5		ポップカルチャー③			
6						6		中間発表①			
7						7		中間発表②			
8						8		国境を超える子どもの言語			
9						9		やさしい日本語について			
10						10		音を使わない言語—手話—			
11						11		〇〇語だけでいいですか？			
12						12		言語バリエーション			
13						13		まとめの発表①			
14						14		まとめの発表②			
15						15		まとめの発表③			
16						16		フィードバック			
17						17		定期試験			
18											
備考	使用教科書：『多文化社会で多様性を考えるワークブック』有田 佳代子 他 著 研究社 ※この科目は語学の業界で実務を有する教員等が、実務経験から生じた知識や実績を網羅した授業を行う。										